

# 長雨と日照不足に伴う農作物の技術対策

平成18年7月25日

福島県農林水産部

## 長雨と日照不足に伴う農作物の技術対策について

県内では7月に入り前線や低気圧の影響で、降雨が多く、日照時間の少ない状態が続いています。

平成18年7月21日発表の「1ヶ月予報」によると、今後さらに1週間程度は、曇りや雨の日が多く、平均気温も低い見込みです。

短期予報や週間予報に注意して、水田の水管理など農作物の適正な管理に努めましょう。

### 【水 稲】

(現在の生育状況)

- 1 草丈は3地方とも平年並からやや長く、茎数は少ないが有効茎は確保しています。幼穂の発育から見た生育の進捗は、中通りと会津ではほぼ平年並で、浜通りでは平年より1～2日程度進んでいます。

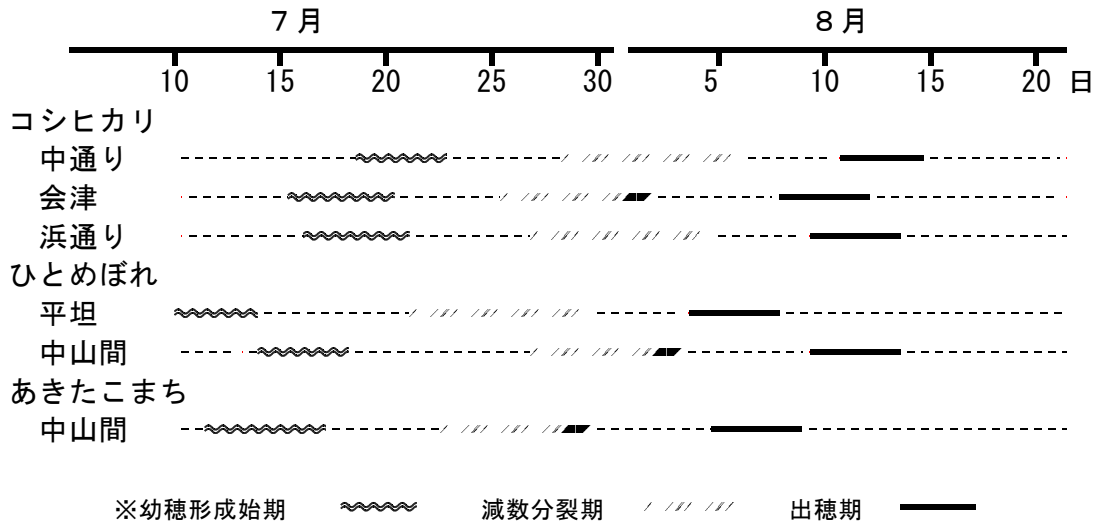


図1 主な品種の生育ステージ（減数分裂期、出穂期は予測値）

- 2 葉いもちは、6月下旬から7月中旬にかけて感染しやすい気象条件が続き、3地方とも7月上旬には発生が確認され、前年に比べ中通りや会津で多く発生しています。

### (今後の技術対策)

- 1 県内の水稻は、幼穂形成期を過ぎて減数分裂期をむかえており、低温に最も弱い時期となっています。20℃以下の低温が予想される場合は、深水管理を行って下さい。
- 2 減数分裂期の深水管理の水深は、15～20cmを目安としましょう。
- 3 7月14日の「葉いもち注意報」に加え、本日、「穂いもち注意報」を発表しました。  
葉いもちの早期発見に努め、葉いもちが発生しているほ場では、散布剤による防除を実施し、上位葉での発病を防ぎましょう。  
また、穂いもち防除は必ず実施し、粒剤で行う場合は、遅くとも出穂10日前までに行いましょう。  
なお、詳しくは、「穂いもち注意報」(発生予察情報ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>) をご覧ください。
- 4 穂肥は、草丈・葉色など生育に応じた施肥量を守り、いもち病の防除を併せて実施しましょう。

## 【大豆】

### (現在の生育状況)

浜通りや中通り地方の一部では、5月下旬や6月中旬の大雨の影響で播種作業の遅れや出芽不良がみられました。

生育は、開花の遅れもみられやや軟弱となっております。また、水田作大豆では、葉が黄化するなど湿害が発生しています。

### (今後の技術対策)

- 1 降雨が続く場合、停滞水とならないよう明きよを掘るなど、排水対策の徹底を図りましょう。
- 2 湿害がみられるほ場では、排水対策を行った後に中耕培土を行いましょう。  
また、生育が抑えられている場合は、硫酸や尿素等の速効性肥料を追肥しましょう。
- 3 雑草が発生しているほ場では、中耕や茎葉処理剤等によりの確に雑草を抑えましょう。

## 【野菜】

### (現在の生育状況)

生育は、中通りと浜通りを中心に3～7日程度遅れ、草勢も弱く、葉色もやや淡くなっています。

また、県内各地で、葉が黄化したり、葉に生理障害の症状が出るなど湿害が発生しています。

キュウリやトマトでは、病害の発生が多くなっています。

### (今後の技術対策)

- 1 ハウス・防虫ネットの栽培管理
  - (1) 日照不足時の追肥は1回当たりの窒素分量を少なくし、窒素過多にならないようにしましょう。
  - (2) 換気を良好にし適正な温湿度管理に努めるとともに、加温機がある施設では、曇雨天時に送風運転を行い、葉の濡れを防ぐようにしましょう。
  - (3) 曇雨天・日照不足等の下で軟弱ぎみの生育をしているので、黄化葉や側枝の新葉を覆っている葉、病葉は随時摘除するとともに、着果負担が大きい果菜類では草勢に応じて摘果しましょう。
- 2 露地の管理  
降雨が続く場合、停滞水とならないよう明きよを掘るなどして排水対策の徹底を図りましょう。

### 3 病害対策

曇雨天・日照不足等の下では軟弱徒長の生育となり、草勢が低下し病気が発生しやすいので、気象の推移と生育状況をみながら適正な防除に努めましょう。

### 4 主な品目の技術対策

#### ◇キュウリ

露地：べと病、つる枯病、炭そ病、褐斑病等の発生が多くなるので防除に努めましょう。また、不良果を摘果し、草勢維持を図りましょう。

◇トマト：追肥は、窒素過多にならないように施用し、草勢維持に努めましょう。また、灰色かび病が発生しやすいので、換気を図るとともに、薬剤散布や花かす（花卉）除去により防除しましょう。

◇ミニトマト：斑点病等が発生しやすいので、換気を図り防除を徹底しましょう。

◇インゲン：排水対策を徹底するとともに、炭そ病等の発生に注意しましょう。

◇ピーマン：疫病等の発生に注意しましょう。

◇ナス：排水対策を徹底し、灰色かび病等の発生に注意しましょう。

## 【果 樹】

### （現在の生育状況）

1 県内各産地におけるモモやナシ、リンゴの果実肥大は順調で、生育の遅れも回復してきています。

モモ「あかつき」の収穫予測は、収穫開始、収穫盛りとも平年より2日程度遅れる見込みです。

2 モモではせん孔細菌病、灰色かび病、ナシでは黒星病、リンゴでは斑点落葉病、褐斑病などが一部の園地に発生しています。

表1 モモ「あかつき」の収穫予測（農業総合センター果樹研究所:福島市）

収穫開始日				収穫盛日			
本年予測	昨年	平年	平年差	本年予測	昨年	平年	平年差
8/ 5	8/ 4	8/ 3	2日遅	8/ 9	8/ 9	8/ 7	2日遅

### （今後の技術対策）

#### 1 園地管理

園地からのすみやかな排水を図るため、積極的に明きよを掘り排水に努めましょう。

なお、モモの中・晩生種では、透湿防水シートを樹冠下全面に敷設することにより、糖度や着色向上が期待されます。

#### 2 栽培管理

(1) モモやリンゴでは枝吊り、支柱立て、夏季せん定により、ナシでは誘引などにより樹冠内部の日当たりを確保しましょう。

また、樹勢や果実の状況に応じた着果管理を行いましょう。

(2) 現在、早生モモの収穫に入っていますが、着色を待って収穫すると果肉先熟となりやすいので、果実の地色に注意して適期収穫に努めましょう。

#### 3 病害虫対策

病害は、日照不足と多雨が連続と感染しやすくなります。

モモでは灰星病やホモプシス腐敗病、せん孔細菌病、リンゴでは斑点落葉病や褐斑病、輪紋病、ナシでは黒星病や黒斑病、輪紋病の発生が想定されますので、散布間隔が開きすぎないように晴れ間をみて防除を行いましょう。

## 【花 き】

### (現在の生育状況)

キクやリンドウの生育は、若干の遅れは見られるもののおおむね順調に生育していますが、一部軟弱に生育しているほ場も見られます。

### (今後の技術対策)

#### 1 露地栽培

キクの白さび病、リンドウの葉枯れ病、褐斑病、シュッコンカスミソウの斑点細菌病、疫病等の病害や排水不良による湿害が発生しやすい条件となっています。

8月咲きの切花に病害が発生すると品質や収量が低下するため、明きよを掘るなどの排水対策や定期的な薬剤散布とともに降雨前後の薬剤散布等により発生を防止しましょう。

また、雨除けが可能な場合は、早めの被覆を行いましょう。

#### 2 施設栽培

(1) 日照不足下では肥効が悪くなるので、過剰施肥とならないように注意するとともに、鉢花や苗物などは間隔を十分にあげる等により受光環境を整えましょう。

(2) 晴天時以外は、できるだけ遮光資材を取り除き日照を確保しましょう。

(3) 施設内の湿度が高いため、強制通風などにより施設内の通気を良くするとともに、必要に応じて薬剤散布等を行い、病害発生を防止しましょう。

## 【飼料作物】

### (現在の生育状況)

2番草の生育は、平年に比べてやや遅れています。また、収穫時期に入りましたが、降雨のため作業が遅れています。

飼料用トウモロコシの生育は順調ですが、降雨による湿害や日照不足による軟弱徒長がみられます。

### (今後の技術対策)

1 2番草の刈り取りは、天候が回復し次第速やかに行うようにし、収穫調製の際に発酵促進剤を添加するなどサイレージ品質の向上を図りましょう。

2 飼料用トウモロコシは、湿害の発生と軟弱徒長による収量低下、倒伏等が想定されますので、排水溝を掘るなどの排水対策を実施し、天候が回復し次第追肥を行い、生育の回復・促進に努めましょう。

3 畜舎環境にも注意を払い、送風による畜舎の除湿などを行い、カビの発生・吸湿状況の確認など給与飼料の適切な管理に努めましょう。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、  
病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>）等を活用し、適切に対応してください。

◎ 技術対策の詳細については、  
最寄りの農業普及部・農業普及所、農業協同組合にお問い合わせください。